都市圏在住者（中部地方）との“本気”で語ろう会 会議録

団体名	都市圏在住者（中部地方）
日　時	令和４年７月７日（木）18時30分から20時20分まで
場　所	WeWork グローバルゲート名古屋　11階会議室（愛知県名古屋市）
参加者	本市出身等の都市圏在住者（中部地方）：５名
	人口減少対策本部：２名

【主な意見】

・鹿屋の魅力や良さ、企業等の情報を何も知らないまま、都会に憧れて出てしまうと、暮らしやすい都会から田舎へ帰ろうとは思わない。

・都市圏は、資格や専門分野に応じた雇用の幅が広い。鹿屋は企業情報が少なく希望する職種も少ないと感じる。

・鹿屋と愛知は家賃に大差がないため、利便性の高い都市に居住する方が良い。

・市外に居住する期間が長くなるほど、家族や仕事、家を建てるなど、家庭環境も変化し、付き合うメンバーも変わる。一度市外に出ても、地元へ戻るのであれば、20代半ばまでだと思う。30代以降は厳しい。30代になる前に、地元に戻らせるような、雇用や情報発信をすべきだと思う。

・今、市外に出ている若者を呼び戻そうと考えるよりも、今、市内に住む子どもたちや若者に鹿屋の良さや企業情報を伝えた方が、進学・就職等で外に出たとしても、将来、帰ってきたいと思う若者たちが出てくるのではないか。

・コロナ禍であり、リモートワークが増えている。サテライトオフィス等場所を選ばず、事務所費用もかからない（コストパフォーマンスのよい）、「テレワークができるまち」を進めたらよいのではないか。

・現在、IT エンジニアは、全国的に需要に供給が追い付いていない状況である。地元に帰る IT エンジニアへの優遇制度や、市内高校等で IT エンジニアを育成すれば企業が集まってくるのではないか。また、都市圏と同水準の給与がもらえる雇用が生まれるのではないか。※　IT エンジニアの講師はオンラインで対応可

・建物が多い都市圏では難しいドローン関連や鹿屋の基幹産業である農業関係の IT 関連企業の誘致を進めれば、高齢の農業従事者も助かるのではないか。

・（中部地方で起業している参加者２名の方に対し、地元での起業は考えられなかったかとの問いに対し）我々の起業のパターンは、それまでの仕事や人のつながりの中で行ってきたものであり、事業の継続性を考えると、それまで活動していた地域での起業が必然であった。

・鹿屋は、高齢者には手厚く、親の世代が安心して暮らせるまちだと思うため、わざわざ（子どもが）帰らなくても良いのではと思う部分がある。一方で、若い世代に寄与する施策が足りないと感じる。子育て制度の充実など、若者が戻りたくなる施策を充実させてほしい。

・コロナ禍の影響もあり、エアメモや夏祭りなど、若者が楽しめるコンテンツが減り、高齢者のまちの印象が強くなっている。コンサートやイベントなど若者が楽しめるコンテンツがほしい。

・帰省の際に、大型のショッピングモールがあれば嬉しいが、それがＵターンのきっかけにはならない。

【意見交換】
・市外に居住した理由・きっかけについて
・都市圏での暮らし・鹿屋市とのギャップについて
・外からみた鹿屋市の良さ・課題・望むこと
・将来鹿屋に帰ってきたいか

【参加者の意見交換】
1　市外に居住した理由・きっかけについて
○鹿屋市内の高校から、県外の大学へ進学し、薬局に就職するため、県内に就職。居住地にこだわりはなかったが、利便性や交通の便、環境がよく、弟も居住していた愛知県の病院へ転職した。
○鹿屋市内の高校から、県外の大学に進学。工学部の材料工学が専門であり、地元に就職先がなく大学の推薦もあったため、愛知県のメーカーに就職し、現在も居住している。
○鹿屋市外の高校へ進学（下宿）。当時から都会への憧れが強く、福岡で就職後より大きな都市を希望し、愛知県の会社に転職し、現在も居住している。
○鹿屋市内の高校を卒業後、給料の良い都会（愛知）へ出稼ぎ感覚で就職、その後、電気工事業を起業
○鹿屋市内の高校を卒業後、都会へ憧れを持ち、20年間、愛知に居住。
葬儀用の花の職人から、IT を活用した生花小売販売等の会社を起業し、活動している。

2　都市圏の魅力・暮らし、鹿屋市とのギャップについて
○都市圏は、鉄道やバスなど、交通の便がよく、買物が便利など、生活に必要なものが何でもそろっている。鹿屋市はバスの便が少なく、車がないと不便であり、子どもたちだけでは、行動できる範囲が狭いと感じる。
○都市圏は、地方に比べて給料が高く、起業もしやすい。都市圏に出た同級生が10人ほどいるが、８割程度は起業している。
○都市圏は、資格や専門分野に応じた雇用の幅が広い。鹿屋は企業情報が少なく希望する職種も少ないと感じる。
○鹿屋は家賃が高い。都市圏と大差なく、便利がよい都市圏に居住するほうがよい。

3　鹿屋への愛着があるか、将来鹿屋に帰ってきたいか
○鹿屋の魅力や良さ、企業等の情報を何も知らないまま、都会に憧れて出てしまうと、暮らしやすい都会から田舎へ帰ろうとは思わない。
○望む職種が鹿屋にはなく、戻りたいと思うが、生活を考えると、現実的には、帰れない。
○親・兄弟も今は鹿屋にいない。都市圏に比べると地元は退屈でもの足りず、家族や仕事の環境を考えると、将来帰りたいとは思わないが、サテライトオフィ

スや、リモートワークの活用による鹿屋の人材雇用に貢献したいという思いはある。

○ふるさとには愛着があり、自分の会社の求人を鹿屋にかけている。

○地元を離れ、生活拠点（仕事・家庭）が他所にある場合は、よほどのことがない限り、帰ることはない。

○鹿屋は、親と友人がいる「ふるさと」としての愛着はある。

○（中部地方で起業している２名の方に対し、地元での起業は考えられなかったかとの問いに対し）我々の起業のパターンは、それまでの仕事や人のつながりの中で行ってきたものであり、事業の継続性を考えると、それまで活動していた地域での起業が必然であった。

４　親は、鹿屋に帰って来てほしいと望んでいるか

○親は、せっかく、愛知で起業し幸せに生活しているのだからという想いの方が強い。帰って来てほしいという想いはあまり感じない。

○直接、言われたことはないが、帰ってきてほしいと思っていると感じる。

○親は、まちの衰退を目の当たりにしており、手に職がなければ、鹿屋では生活できないからと、市外でスキルを身につけてほしいと感じている。

５　外からみた鹿屋の良さ・課題・望むこと

○鹿屋は、高齢者には手厚く、親の世代が安心して暮らせるまちだと思うため、わざわざ（子どもが）帰らなくても良いのではと思う部分がある。一方で、若い世代に寄与する施策が足りないと感じる。子育て制度の充実など、若者が戻りたくなる施策を充実させてほしい。

○コロナ禍の影響もあり、エアメモや夏祭りなど、若者が楽しめるコンテンツが減り、高齢者のまちの印象が強くなっている。コンサートやイベントなど、若者が帰ってきた時に楽しめるコンテンツがほしい。

○帰省の際に、大型のショッピングモールがあれば嬉しいが、それがＵターンのきっかけにはならない。

○市外に居住する期間が長くなるほど、家族や仕事、家を建てるなど、家庭環境も変化し、付き合うメンバーも変わる。一度市外に出ても、地元へ戻るのであれば、20代半ばまでだと思う。30代以降は厳しい。30代になる前に、地元に戻らせるような、雇用や情報発信をするべきだと思う。

○今、市外に出ている若者を呼び戻そうと思うよりも、今、市内に住む子どもたちや若者に鹿屋の良さや企業情報を伝えた方が、進学等で外に出たとしても、将来、帰ってきたいと思う若者たちが出てくるのではないか。

○現在、IT 関連の会社を起業し、日本全国の花屋に登録をしてもらい、葬儀や慶事のおくやみやお祝いの花を遠隔地へ届けるサービスを展開している。コロナ等により、移動しにくい時代に、地元に帰れなくても対応できる新たなサービスの提供を行う上で、地元でエンジニアを育てる体制が出来れば、地元人材の雇用を生み出すこともできる。ふるさとの優秀な人材を雇用したい。

○コロナ禍であり、リモートワークが増えている。サテライトオフィス等場所を

選ばず、事務所費用もかからない（コストパフォーマンスのよい）、「テレワークができるまち」を進めたらよいのではないか。

○現在、ITエンジニアは、全国的に需要に供給が追い付いていない状況である。地元に帰るITエンジニアへの優遇制度や、市内高校等でITエンジニアを育成すれば企業が集まってくるのではないか。また、都市圏と同水準の給与がもらえる雇用が生まれるのではないか。

○建物が多い都市圏では難しいドローン関連や鹿屋の基幹産業である農業関係のIT関連企業の誘致を進めれば、高齢の農業従事者も助かるのではないか。

○鹿屋は、食べ物がおいしい。お土産は、さつまいも製品やかるかんがイメージとして浮かぶ。豚味噌は都市圏でも評判が良い。